



平成 26 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 J Xホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 松下 功夫
コード番号 5 0 2 0 東証・名証第 1 部
問合せ先 財務 I R 部 I Rグループマネージャー
鈴木 隆次
(電話番号 03-6275-5009)

当社子会社によるマレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の開発移行決定について

当社子会社の J X 日鉱日石開発株式会社（社長：平井 茂雄）が出資する JX 日鉱日石マレーシア石油開発株式会社（社長：和佐田 演慎）は、同社がオペレーターとして 75% の権益を保有するマレーシア・サラワク沖 SK10 鉱区のラヤン油ガス田の開発移行を決定し、マレーシア国営石油会社ペトロナスより同油ガス田開発計画の承認を取得しましたので、お知らせします。

当社は、マレーシアをコア事業国の一つと位置付け、同国において SK10 鉱区を含む計 7 つの鉱区で事業を推進しており、今後も同国における石油・天然ガス開発事業に積極的に取り組んでまいります。

なお、本件による当期連結業績への影響は軽微です。

以 上

「添付資料」マレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の開発移行決定について

2014年5月12日

各 位

JX日鉱日石開発株式会社

マレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の開発移行決定について

当社（社長：平井 茂雄）が出資するJX日鉱日石マレーシア石油開発株式会社（社長：和佐田 演慎）は、同社がオペレーターとして75%の権益を保有するマレーシア・サラワク沖SK10鉱区のラヤン油ガス田の開発移行を決定し、マレーシア国営石油会社ペトロナスより同油ガス田開発計画の承認を取得しましたので、お知らせします。

ラヤン油ガス田は、同じくSK10鉱区で生産中のヘランガス田の東方約8キロメートルに位置しています。ラヤン油ガス田の開発は、専用のプラットフォームと浮体式生産貯蔵積出設備（FPSO※）を新たに設置する計画です。商業生産開始を予定している2016年第2四半期には、ガス生産分として日量約1億立方フィート（原油換算日量約17,000バレル）、コンデンセート・原油生産分として日量約7,000バレルの初期生産を見込んでいます。

※FPSO：Floating Production, Storage and Offloading system

ラヤン油ガス田から生産する天然ガスは、ヘランガス田から生産する天然ガスとともに、全長約200キロメートルの海底パイプライン経由で、JX日鉱日石エネルギー株式会社が出資するマレーシアLNGティガ社の液化プラント（サラワク州 ビンツル）に輸送し、同社で液化後、LNGとして販売する予定です。また、コンデンセート・原油については、FPSOから洋上出荷する予定です。

当社はヘランガス田に加えラヤン油ガス田にて天然ガス生産を行うことにより、今後、天然ガス供給体制の一層の拡充を図ってまいります。

当社は、マレーシアをコア事業国の一つと位置付け、同国においてSK10鉱区を含む計7つの鉱区で事業を推進しており、今後も同国における石油・天然ガス開発事業に積極的に取り組んでまいります。

1. SK10 鉱区の概要

- (1) 鉱区取得日：1987年11月16日
- (2) 権益比率：JX日鉱日石マレーシア石油開発株式会（75%）、ペトロナス・チャリガリ（25%）
- (3) オペレーター：JX日鉱日石マレーシア石油開発株式会社

2. JX日鉱日石マレーシア石油開発株式会社の概要

- (1) 代表者：和佐田 演慎
- (2) 設立：1987年10月14日
- (3) 事業内容：マレーシアにおける石油、天然ガスその他鉱物資源の探鉱、開発、採取、加工、貯蔵および売買ならびに付帯する事業
- (4) 株主：JX日鉱日石開発株式会社（78.7%）、国際石油開発帝石株式会社（15.0%）、三菱商事株式会社（6.3%）

以上